

チェリー 四季だより



『スターゲイザー／T.Stargazer』（トライアンフ群）

1991年登録。オランダにて育成。昨年植物検疫が免除となった品種。
フランス料理 ラモヴェールにて

ハーブのお話

株式会社ティアンドケイ代表取締役

岡田 隆史氏

十二年前のことです。レストランをオープンして、私が料理の中へ取り入れようと思ったハーブがこの北陸では手に入らなかったのです。当時東京ではスーパーでも簡単に、しかも安く手にするのができ、フランス料理では当り前の素材として活用されていました。

ある日、知り合いの八百屋さんがやつと仕入れてくれたのですが、少々萎びていて、しかも高いのです。「えっ、こんなでは使えないよ」と言うと、「それじゃあ、もうとれない、これでもいいほうだよ、ここへ来るには時間もかかるし…」という返事でした。都会では簡単に入手できる素材が地方では困難。と言うことは食の楽しみ、食を通した新しい幸せに地域格差が生まれるということ。その時、私の反感的気持ちが始まりました。沸き立ち、対抗策、いえ、実現策が芽生えました。「それなら、自分で栽培してしまおう」

果たして、北陸のこの地にハーブという外来の植物が根付くのだろうか、という不安が高まる中で、ともかく一本のミントをレストラン横の元、田んぼという地面に植えてみたのです。すると、一か月もたたない内にぐんぐんと成長し、やがて茂み

となるほどに大きくなったのです。

「いやー、君がミントか…」と、その時の喜びは何事にも代えがたいものとなりました。思わずその茂みを抱きかかえてみました。身体中に広がる強く逞しい爽やかな香り。

このことから私のハーブ栽培は本格的に始まりました。しかし、元、田んぼという地面では育ちにくいハーブ、それにせっかく初夏に素晴らしい可憐な花を付けても梅雨どきになると蒸れて、腐ってしまうもの。さらに冬の間は掘りあげてハウスの中で管理しないと絶えてしまうものなどハーブの個体差と環境との間に起こる問題にも直面しました。

やがて、料理に使ってもあり余るハーブを、ハーブ・ティーに、クッキーに、そしてポプリやリースにと活用の幅を広げていくこととなりました。次第に私たちとハーブの関係が見えてきました。そのテーマの一つはハーブに囲まれた気持ち良い環境作り、そしてもう一つはハーブを活用した生活文化への試みです。

ハーブとは元々、私達の周辺に自生する私達にとって有用な植物の総称であると理解しています。西洋のハーブの歴史を紐解けば、紀元前一七〇〇年頃のエジプトのパピルス文



▲密生するペニーロイヤルと花壇

書にすでに数種類のハーブが活用されていた記述があるそうです。さらにローマ帝国の興亡とハーブとの係わりも大きなポイントです。当時ローマ人は生活文化の中へとハーブを取り入れ、儀式に、癒しや消毒の薬として、染色に、芳香剤として、食用として、入浴剤として…あるときは床やベットの一面に香りのよい花や葉を撒き散らしたり、湯船をハーブで満たしたりしてその魅力を満喫していたと言われています。その後ローマ帝国が滅びても、かつてローマ帝国の支配下にあったヨーロッパの広範囲にハーブは生き残ったのです。



▲ガーデンで一番大きく育ったローズマリー

教会や修道院では癒しの薬として育てられ、疫病が蔓延した中世の街ではラベンダーやローズマリーを身を守るための消毒剤として活用したのです。やがて、ハーブは庭園に欠かせないものとなり、香りを楽しむ芳香剤やクラフト材として、また現

在では自然志向の治療薬や料理の素材としてその価値観を高めているのです。私達の国には元々素晴らしい園芸文化がありました。朝顔、盆栽、山野草、菊…どれをとっても世界に二つとない技と情熱の結晶です。でも、



▲英国の様式を取り入れたノットガーデン



▲カモミールの群生

それらは植物としての最高傑作を作り上げることが目的です。ハーブはその点ちよつと違います。ハーブとはあくまでも私達の生活の中へと取り入れてこそ真価を発揮するものなのです。収穫して、さて、どのように活用してみようかな：胸がわくわくとする瞬間です。この瞬間の喜びをぜひ皆さんと分かち合いたいと思います。ハーブをたくさん育ててお困りの方、どうぞご相談ください。

※写真はすべて氏の経営するラモヴェール農場内にて撮影されたものです。

略歴



おかだ たかし

- 昭和二十四年 埼玉県熊谷市生まれ
- 四十七年 アメリカ合衆国オレゴン街道三五〇キロメートル単独徒歩横断
- 四十八年 玉川大学農学部卒業
- 四十九年 草刈り十字軍初代隊長
- 五十年 アメリカ合衆国ルイス&クラーク街道五五〇キロメートルゴムボートにより横断
- 五十七年 シンガポール共和国テクノオアシヤン勤務(家族共々)
- 五十八年 アメリカ一周一六〇〇キロの大旅行(家族で)
- 同 富山県福光町へ移住
- 五十九年 富山県青年の山研修館勤務
- 六十二年 福光町にてフランス料理店ラモヴェール (Le Hamneau Vert) 開店
- 平成元年 (有)ティアンドウエイ設立
- 二年〜七年 (平成八年株式会社に改組)
- 五年 北日本放送ラジオパーソナリティー
- 七年 天皇后両陛下と赤坂御所にて懇談
- 七年 阪神大震災ボランティア(炊き出し五千食)
- 十年 チューリップ四季彩館園芸大学講座講師
- 現在 (株)ティアンドウエイ代表取締役
- 著書 「時速四キロ西部を行く」「大陸版大西部航海記」「アメリカ一周大旅行」ほか

県内ニュース

ユリの新品種

富山県では、チューリップの球根のみならず、ユリの球根産地として「内田カノコ」をはじめとしたカノコユリの生産が行われており、ユリも県の特産物の一つとされています。多様化する消費者ニーズに対応した品種育成が望まれている今日、富山県農業技術センター野菜花き試験場では、珍しい花型で、球根養成期間の短い品種の育成を目標として胚培養等の交配法の研究とともに育種が続けられてきました。

今回作出された富山県独自のアジアティック系とオリエンタル系の新品種の中から、衣服などを汚す花粉が全くでないもの、従来品種より早い出荷が可能なもの、アレンジに適した近年流行の小輪咲きのもの等、品種登録申請中の十一品種をご紹介します。

アジアティック系新品種

【中輪・高増殖率】



「ほの華」か



「姫華ムーン」ひめか



「ほの華」か

昭和六十三年に交配し、育成した。特性／明るいオレンジ色の中輪で、斑点がほとんどない。増殖特性に優れ、十センチ以下の小球でも切り花生産が可能。

【小輪】



「姫華ムーン」ひめか

トサヒメユリを親に用いて交配し、昭和六十三年に胚培養によって育成。特性／花は黄色の小輪で、段咲きで花数が多い。

「姫華ハート」

トサヒメユリを親に交配し、昭和六十三年に胚培養によって育成。特性／ヒメユリの草姿はそのままにその原種にない赤色の花色を持ち、新規性が高い。

「姫華サン」

トサヒメユリを親に交配し、昭和六

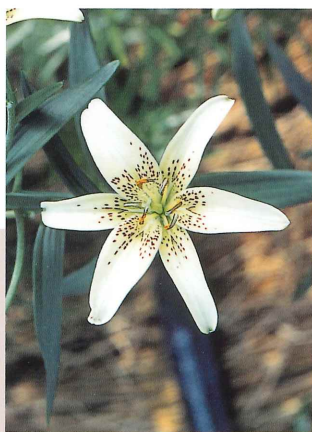
「姫華ハート」



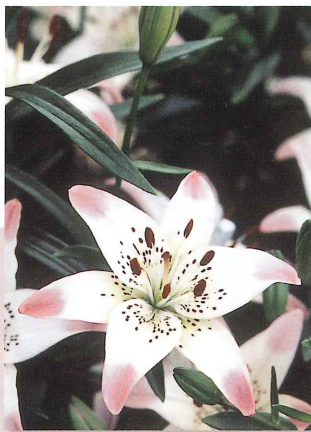
「姫華サン」



「姫華スノー」



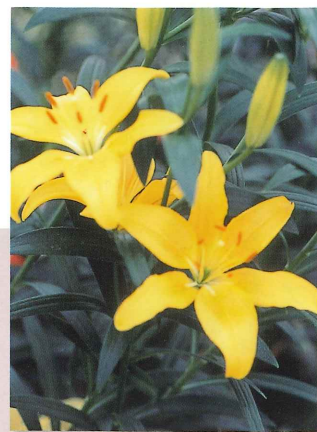
「姫華
彩」あや



「姫華フレア」



「姫華ステラ」



十一年に胚培養によって育成。
特性／オレンジ色の小輪咲き。段咲きで多花。切り花だけでなく花壇用にも適する。

「姫華スノー」

平成三年に試験場育成の母本系統同士を交配、胚培養によって育成。
特性／白色の極小輪咲き。ヒメユリの草姿そのまま、その原種にない白色の花色を持ち、非常に珍しく新規性が高い。

「小輪十斑点なし」



「姫華ステラ」

試験場育成系統の母本系統を用いて交配、昭和六十三年に胚培養によって育成。
特性／明るい黄色の小輪で斑点がなく、段咲き多花。背丈が高い。

「姫華フレア」

試験場育成系統の母本系統を用いて交配、平成二年に胚培養によって育成。

特性／花は明るい黄色に弁先が赤橙色の小輪咲き。斑点がない。草丈は高く、草姿バランスが良い。

「小輪・覆輪」



「姫華
彩」あや

試験場育成系統の母本系統を用いて

交配、平成二年に胚培養によって育成。
特性／白色に弁先が濃紫ピンクの小輪咲きで、花色のコントラストが鮮やか。

「花粉が出ない」



「ピュアリス ティア」

試験場栽培の実生同士を交配、平成二年に胚培養によって育成。
特性／鮮やかな黄色の小輪咲き。やがなく花粉が全く出ない。花弁に斑点がない。茎が強く、濃褐色。

「ピュアリス ミオ」

育成過程は「ピュアリス ティア」に同じ。
特性／明るいオレンジ色の小輪咲きでやがなく、花粉が全く出ない。花弁に斑点がない。茎が強く濃褐色。

「極早生、到花日数短」



「乙女のほほえみ」

オトメユリを親に用いて交配し、昭和六十二年に胚培養によって育成。
特性／淡いピンク色でオリエンタル系では数少ない小輪咲き。早生咲きで露地でわい性。花壇、鉢物用。

「乙女のほほえみ」



「ピュアリス ミオ」



「ピュアリス ティア」

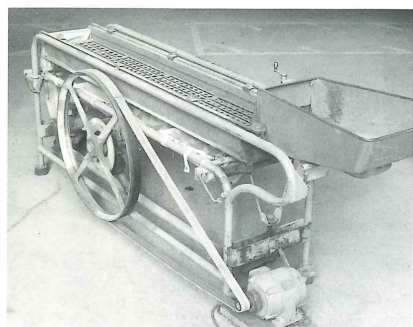


チューリップ生産と 農具のいま・むかし

大正七年、水野豊造氏の手によって砺波の地で初めてチューリップが栽培されて以来、昭和初期から現代にいたるまでの間、その時代、時代のチューリップの球根生産に適した農具が考えられ、使用されてきました。球根の植付けから掘取りまでの栽培管理や、掘取り後の調製から出荷までのすべての作業工程において、いかに的確で能率良く仕事ができるかということが栽培農家の願いでした。手作業のための器具からはじまり動力付きの機械への改良、改善など長い間の試行錯誤を重ねての成果や、部分的には昔も今も変わらず愛用されているものなど興味深いものがあります。

チューリップ四季彩館ミュージアムに展示している農具を中心にその時代毎のチューリップ生産農具をいくつかご紹介します。

昭和30年



球根選別機(グレーディングマシン)

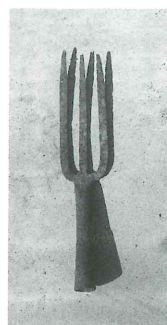
〈昭和37年
〜現在〉

サイズ板上を振動によって球根を移動させながら選別する。興人式

昭和10年

球根掘取フォーク(三本刃)

〈昭和10年頃〜現在〉

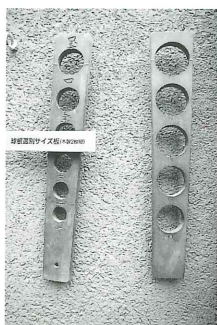


球根掘取り用。昭和十年頃から現在に至る最も普遍的な器具で、材料は千歯稲扱きの歯を用いたものが多かった。

昭和20年

球根選別サイズ板(二枚組)

〈昭和20年代初〜30年代終頃〉

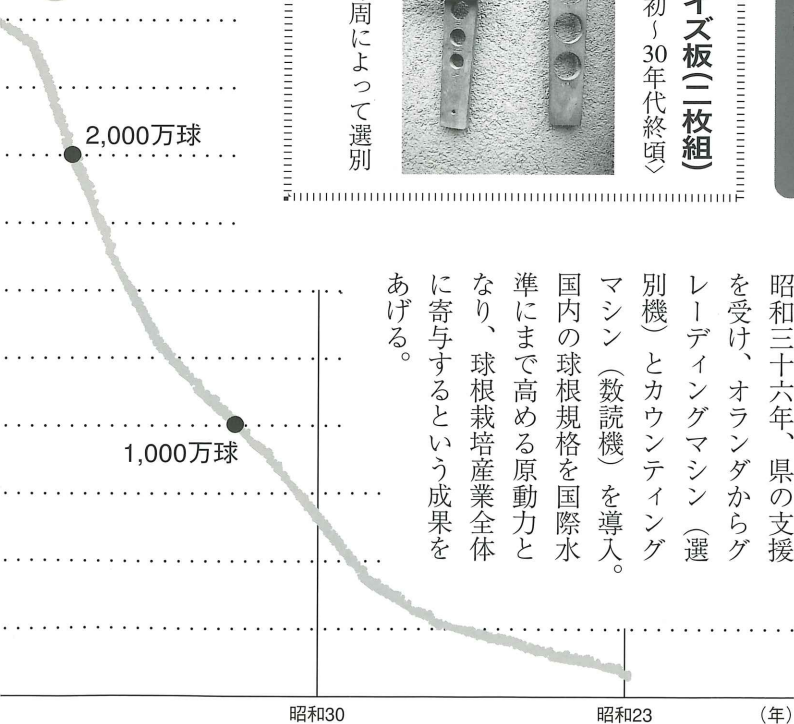


球根をその球周によって選別する。木製



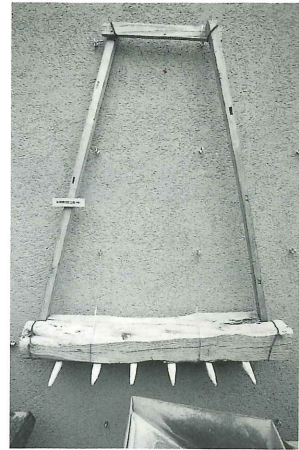
▲手作業による摘花(昭和20年代末頃)

昭和三十六年、県の支援を受け、オランダからグレーディングマシン(選別機)とカウンティングマシン(数読機)を導入。国内の球根規格を国際水準にまで高める原動力となり、球根栽培産業全体に寄与するという成果をあげる。



球根植付筋立器

〈昭和30年代末～50年代後期〉

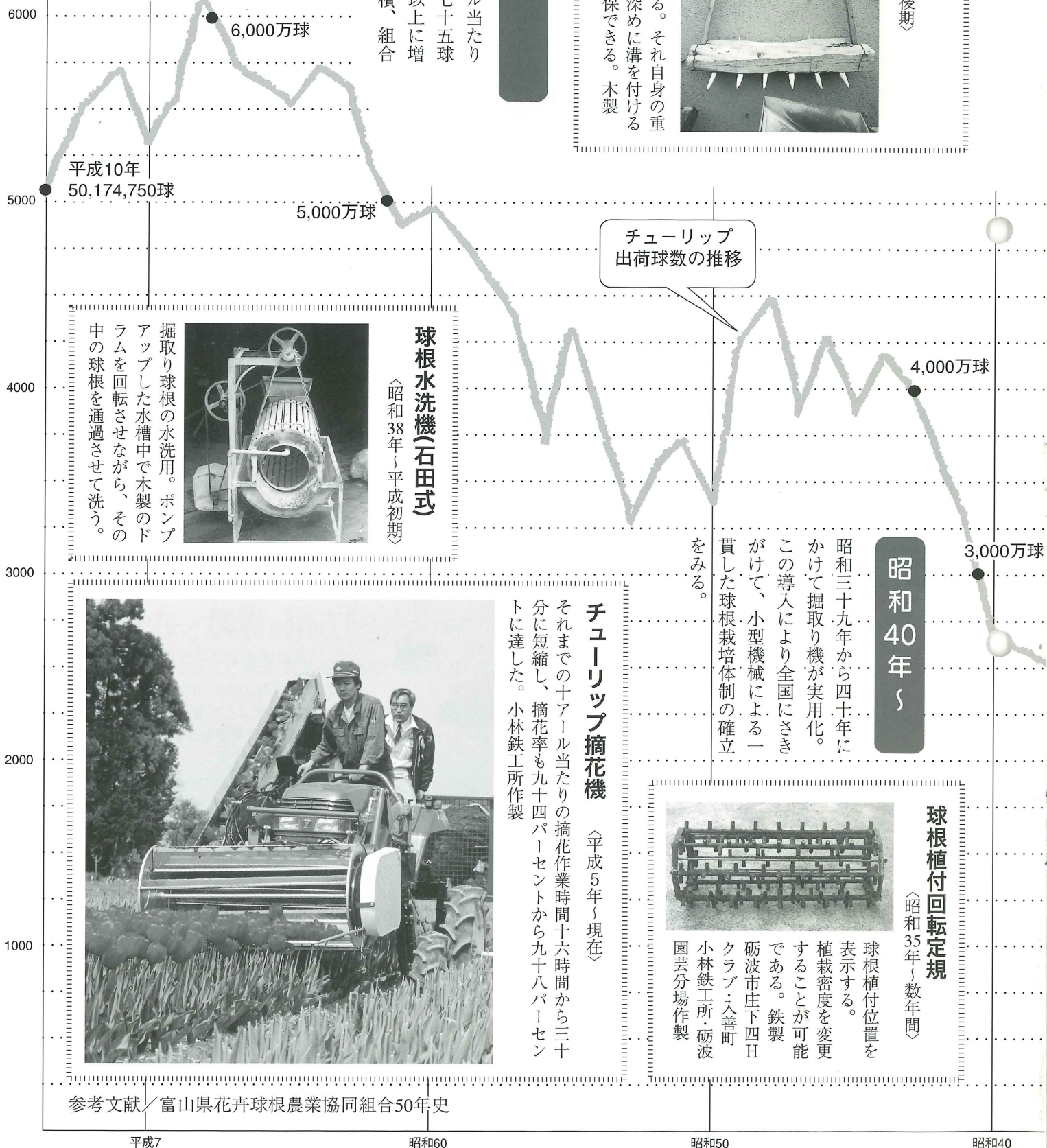


球根植付位置を表示する。それ自身の重さで植付け位置にやや深めに溝を付けるので植込みの深さも確保できる。木製

昭和50年～

昭和五十一年、十アール当たりの収量が二万二千八百七十五球と二十三年当時の四倍以上に増加。そのため、栽培面積、組合員数の減少とは反対に県内の生産球数は増大し、チューリップ栽培の先進地であった新潟県を追い抜き、名実共に日本のチューリップ産地となり、全国の球根産業の指導的立場に立つことになった。

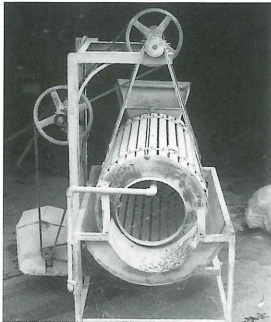
(万球)



チューリップ
出荷球数の推移

球根水洗機(石田式)

〈昭和38年～平成初期〉



掘取り球根の水洗用。ポンプアップした水槽中で木製のドラムを回転させながら、その中の球根を通過させて洗う。

昭和40年～

昭和三十九年から四十年にかけて掘取り機が実用化。この導入により全国にさきがけて、小型機械による一貫した球根栽培体制の確立をみる。

チューリップ摘花機

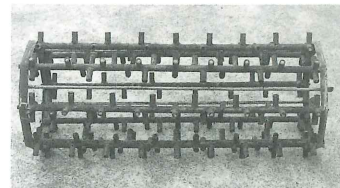
〈平成5年～現在〉

それまでの十アール当たりの摘花作業時間十六時間から三十分短縮し、摘花率も九十四パーセントから九十八パーセントに達した。小林鉄工所作製



球根植付回転定規

〈昭和35年～数年間〉



球根植付位置を表示する。植栽密度を変更することが可能である。鉄製。砺波市庄下四日クラブ・入善町小林鉄工所・砺波園芸分場作製

チューリップ四季彩館
からのお知らせ

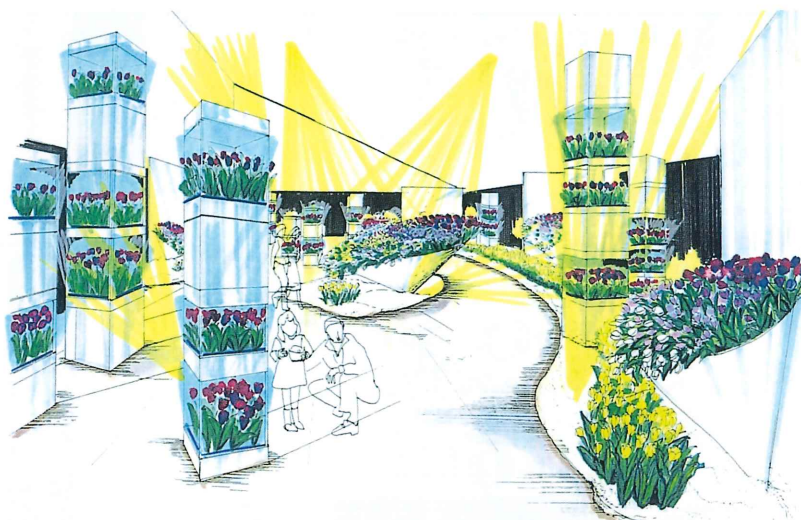
'99となみチューリップフェア 【4月23日(金)～5月5日(祝)】

..... 館内催し物

★特別企画展／チューリップホール

“エキゾチック チューリップ のオーラ”

時が止まり、光と影だけが空間を埋める。エキゾチックな黒いチューリップが光にうつる時、一瞬あでやかな赤い光を放つ…。黒と白と光のミステリアスな世界に足を踏み入れてみませんか。



★チューリップテラス

“びっくり丘の チューリップの樹”

なっ なんと！チューリップが樹になる？パロット咲きのゆかいなチューリップたちで作る、そんな冗談みたいな楽しい世界をお楽しみください。

★企画展／2階セミナールーム

“太田 洋愛 さくら展”

〈太田洋愛ボタニカルアート展〉

日本の植物画(ボタニカルアート)の先駆者、特に『さくらの花』の画家として著名な太田洋愛氏の代表作の原画30余点を展示します。



富山県砺波市中村一〇〇一
電話 〇七六三ー三三ー七七一六
FAX 〇七六三ー三三ー〇〇九〇
(財)砺波市花と緑の財団
〒九三九一ー一三八一

発行日 平成十一年四月一日



チューリップ四季彩館
TONAMI TULIP
GALLERY

その他、香りのチューリップを集めたチューリップスクエア、チューリップの歴史や文化、球根の仕組みなどを楽しみながら学べるチューリップミュージアム、また、新品種『楊貴妃』を始め、350品種のチューリップ品種見本園も併せてご覧ください。

*チューリップフェア期間中は、チューリップ四季彩館単独でのご入場はできません。